SHOOJI YOKOCHO

まちも、暮らしも、もっと豊かに。
地域の人とともに考える、まちづくり。

松應寺横丁 しょうおうじよこちょう

岡崎市松本町、家康公ゆかりのお寺に開かれた松應寺横丁。再生への道は2011年、「松應寺横丁プロジェクト」の発足から始まりました。地域の人とともに課題を発見し、イベントの実施や空き家マッチングを構想。2013年に「あいちトリエンナーレ」の会場となったことが後押しし、今では新しい店舗が増え、貸せる物件がほとんどないほどになりました。さらに、松本町包括ケア会議や買い物支援など地域主体のまちづくりが続けられ、近年では、「お年寄りにやさしいまち」としても注目を集めています。

愛知県岡崎市松本町

事例集は「愛知県商業流通課webページ」でもご覧いただけます

発行：愛知県経済産業局中小企業部商業流通課／企画：株式会社ナゴノダナバンク

1560 **松應寺建立**

江戸時代は門前町として栄えた

永禄3（1560）年家康公は桶狭間の合戦後、岡崎城主となり、非業の死を遂げた父の菩提のため、月光庵の地に寺を建立。家康公は手植えの松が緑深く伸長したことを喜び、松應寺と名付けた。

左：松應寺本堂、右：松應寺にしかない剣銀杏紋。徳川家の家紋「三つ葉葵」の原型になったと考えられている

家康公の父君を供養する寺として格が高く、一般の人がお参りに来られるお寺ではなかった。明治維新の際に規模を縮小された

家康公お手植えの松は空襲でも被災を逃れたが、1991年マツクイムシの被害で枯れてしまい、2010年に2代目が植えられた

1945 **岡崎空襲**

1953年頃、木造アーケードがつくられた

終戦間際の岡崎空襲でまちの８割が消失。松應寺の参道に闇市のバラックができ、現在の木造建築と木造アーケードとなっていく。

小さいころ、料亭から聞こえる三味線と太鼓の音、料理の匂いに大人の世界を感じて嫌だった　（服部住職）

昭和後期頃まで **花街として栄える**

松應寺の境内は花街として栄えていた。今も建物の一部に当時の面影を見ることができる。商店街には駄菓子屋、美容院などもあった。

境内に生活と商売と花街が同居

2011

ターニングポイント

「松應寺横丁まちづくり協議会」発足

空き家・空き店舗となって老朽化した商店街と、少子高齢化の進行をなんとかしようと、松本町町内会、松應寺住職、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた職員らにより発足。

境内には「参道商店街」「仲見世商店街」「松屋商店街」があった

取組成果

「松應寺横丁にぎわい市」開催

まちなみの魅力を広く知ってもらうため、松應寺境内と路地、空き家を活用した縁日的お祭りとして開催。趣味の手づくり作家らが多く出店し、1000人以上もの人が訪れた。以後年に２回（春・秋）を定例化し、毎回1000人を超える集客を誇っている。

（写真提供：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた）

岡崎三大祭があるので地域の結束が強い。実行力や運営ノウハウ、お手伝いのネットワークが底力！

2012

取組成果

「松本なかみせ亭」開店

愛知県「新しい公共支援事業」により空き家改修費用を調達し開店。軽食が提供できる厨房と雑貨を販売できる24のレンタルボックスがある。

近所の高齢の常連さんが来ないと心配になって家まで声掛けに行ったり、お客さんと一緒に座ってたくさんしゃべったりと地域の健康寿命を延ばしている店主のお二人！

目標の10年を超え、今年で12年！

2013

波及効果 店舗オープン

「きものゆあん」開店

不明だった空き家の所有者を突き止め、賃貸または売却の意思の確認を進めていった。トラブルを心配する所有者も多かったが、徐々に貸してもよいという物件が出てきて、アンティーク着物店を開店。

あいちトリエンナーレ2013

国際芸術祭の展示会場として３軒の空き店舗が活用された。

「松本町包括ケア会議」発足

「少子高齢化」の課題と向き合うため、町内会長、老人会、民生委員、地域包括支援センター、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた職員らで発足。

2014

波及効果 店舗オープン

「一松会員制弁当屋」開店

高齢者のくらしのニーズ調査を実施。近隣の商店やスーパーが減ったため、買い物に困っていることが分かり、「一松会員制弁当屋」を開店。

2016

波及効果 店舗オープン

「おしゃべりサロンじゅげむ」開店

元呉服店の建物が、現在は気軽に立ち寄れる「まちの縁側」へ。おしゃべりしたり、お茶を飲んだり、カラオケ、習い事など思い思いにくつろげる。最近は地域の高齢者の麻雀が人気。

2018 **「松應寺横丁まちづくり発展会」（商店街組織）発足**

「松應寺横丁まちづくり協議会」と新しい店舗らで商店街組織を発足。

松應寺横丁まちづくり発展会で空き家をサブリースしている店舗もある。マージンは取っていないが、コントロールできることがメリット

2023 **大河ドラマ「どうする家康」放送**

観光客がたくさん訪れた。

2011年16軒あった空き家は、所有者を調べ、賃貸の意思確認を続けた結果、現在はほぼ空き家はない状態。2024年までに23軒の空き家活用がされ、周辺地域にも新しい店が増えてきた。テナントは副業や退職後の方が多い

今後の課題

- 建物とアーケードの耐震、老朽化をどう延命、更新していくか。改修費の積立てをはじめた
- マナーの向上で、観光公害から居住者を守りたい
- 高齢者のケアを充実させていきたい、「家で死ねるまち」にしたい

高齢者がいきいき暮らすまちでありたい

松應寺横丁

家康公ゆかりの松應寺に開かれた、暮らしが息づく商店街

＞＞服部住職
松應寺は家康公の父である松平広忠の菩提のため1560年に建立し、江戸時代には徳川幕府からも重要視され、歴代将軍が参詣していたとても格式の高い寺でした。しかし、1945年の岡崎空襲によって大きな被害を受けて、御廟所と太子堂以外は焼けてしまいました。
空襲によって焼け野原になった広い境内には戦後の混乱期に多くの人が集まり、境内では闇市が開かれ、家屋が増えていきました。その結果、お寺の中にまちが形成されてしまったんです。
僕は松應寺に生まれて、昭和40年代から60年代までここで育ちました。当時は花街として栄えていて、料亭から三味線の音が聞こえていました。
しばらく地元を出ていたんですが、2006年に戻ってきたときには空き家が増えていて驚きました。昔は夜の街だったけれど、昼間にも来れる場所にしたいと思いましたね。

＞＞天野さん
僕は岡崎出身ですが、松應寺横丁がある松本町にはほとんど来たことがありませんでした。2009年頃にたまたま近くの飲食店に来た帰りにふらっと寄ってみたら、路地の中に太子堂と木造のアーケードがあって。街並みに魅かれて度々訪れていたら、服部住職に声をかけられたのが最初のご縁ですね。不審者と思われたのかも（笑）
元々まちづくりを学んでいて、地元で何かしたいと思っていたので「NPO法人岡崎まち育てセンター・りた」（以下、りた）で松應寺横丁プロジェクトに関わっています。

＞＞柴田さん
私も岡崎には住んでいたけど、松應寺横丁のことはあまり知りませんでした。地元の人でも少し離れたところにいるとよく知らない人が多いんじゃないかな。昔は公設市場や駄菓子屋があって、近くまで来ることはあったんですけどね。

転機となった「にぎわい市」と「あいちトリエンナーレ」

＞＞天野さん
2011年から「松應寺横丁プロジェクト」を発足し、地元有志のみなさんと一緒に活動をしています。はじめに町民のみなさんにアンケートを取ってみたら、高齢化や空き家の増加が課題であるということがわかってきました。そこで「松應寺横丁にぎわい基本計画」を策定して、にぎわい市の実施やにぎわい拠点づくり、空き家のマッチングなどを計画しました。

＞＞服部住職
それから2ヶ月くらいで最初のにぎわい市をやったから早かったよね。そのときは1000人くらいの来場者が集まって、その半年後にも2回目を開催して盛況だったので、春と秋の年2回開催が定着しました。

松應寺横丁では空き家が多いことが課題だったけど、貸してもいいという人は少なかった。最初はにぎわい市の日だけ場所を借りるというところからのスタートでしたね。

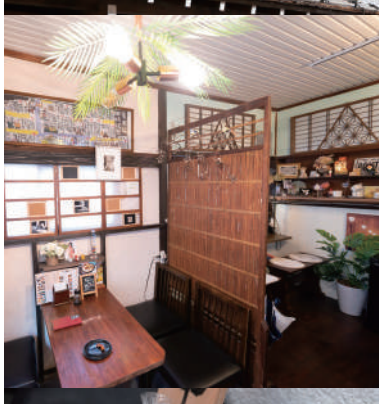
＞＞天野さん
空き家があっても老朽化が進んでいてすぐに使えない状態だったり、知らない人に空き家を貸すことに抵抗感を持っている方もいます。他人から見ると「空き家」でも、持ち主にとっては「資産」でもあるからです。
そもそも、戦後の混乱期に建てられた空き家は現行法では建て替えが難しいものがほとんどで、さらに家屋や土地の所有者が不明であったり、分筆されていたりと、複雑な事情が絡み合っていました。
まずは建物を借りるために、権利者の方を探して交渉をするという地道なところからスタート。さらには長期間空き家になっていた物件なので、店舗を借りたいという事業者が見つかっても改装も困難続きでした。

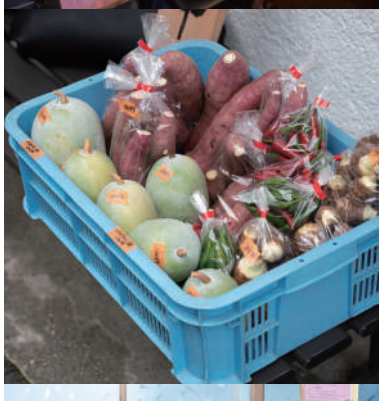
そんな中で、プロジェクト発足から2年目の2012年には空き家活用第1号となった「松本なかみせ亭」の賃貸契約をすることができました。運よく、りた立ち上げ時の理事をされていた方が松本町のご出身だったご縁もあったので助かりましたね。

＞＞柴田さん
寒い時期は人も来ないし最初は大変でした。なかみせ亭にはシェアキッチンと自分の作品や商品を売るオーナー制の貸し棚がありましたが、固定店でないとお客さんも定着しづらいですね。

＞＞天野さん
2013年に「あいちトリエンナーレ」の会場になったことは大きな転機になりましたね。愛知県がトリエンナーレ期間中の3ヶ月だけ松應寺横丁を借りるということで、公的な資金で補修をすることもできました。行政という信頼感のある相手だったこともあって、所有者の方にとっても建物を貸すことへの抵抗感が薄れたのではないかと思います。トリエンナーレをきっかけにして息を吹き返したという印象がありますね。

＞＞服部住職
おかげで新しい店舗も増え、今は貸せる物件はほとんどないという状況です。ここの物件は不動産サイトには載らないので、希望者から協議会に直接問い合わせがきて、申請書の内容や面談を経て契約に至ります。しかし、改装のハードルが高いので簡単にはマッチングしません。
でも、トリエンナーレに来て街並みに一目惚れしたという方が出店したり、女性同士で遊びに来る人も増えたりしていて、当初思い描いていた「昼間に来れるまち」には着実に近づいていると思います。





人の縁が育んできた「お年寄りにやさしいまち」

＞＞天野さん
お店は増えましたが、ハード面での課題はいまも抱えています。そもそも、境内の敷地内にある松應寺横丁は公道に面していないので、一度建物を壊してしまったら再建築することができません。いまはできる限りの耐震対策をしながら建物の延命をしています。
松應寺横丁のシンボルともいえる木造のアーケードは再建築できる場所にあるのですが、参道に面した建物と一体化していることもあって構造的に建て替えも難しい。いずれはハード面の更新も考えなければいけないですが、現在の基準に合わせるとこの風景が生み出す風情を残していくことは難しいのではないでしょうか。

＞＞服部住職
こうしてにぎわいが生まれたことはありがたいのですが、やはり「観光公害」という課題も気になりますね。境内は神聖な場所なので、マナーを守って遊びにきていただけるとありがたいです。イベント時は住民の方への騒音対策にも気遣う必要もあるので、住民・お店・お寺のそれぞれの立場でにぎわいとマナーを両立していくことも大切だと感じています。
松應寺横丁の特色としては商業的なカラーだけでなくて、近隣住民の高齢者の方の見守りという側面もあります。なかみせ亭をはじめ「おしゃべりサロンじゅげむ」（以下、じゅげむ）のように地域の方が活動できる拠点もあり、住民の見守りができるようになっています。

＞＞天野さん
公設市場がなくなってからは、買い物は徒歩10分ほどのところにある商業施設に行かなければならず、移動手段を持たない方にとっては大変でした。2021年からは河西さんのご家族が始めた移動スーパーが定期的に来てくれるようになって、地域の方にも喜ばれています。
松應寺横丁のある松本町では「松本町包括ケア会議」という活動もあり、地域が主体となって包括ケアに取り組むロールモデルにもなっています。介護予防・支援の先進的な地域として、岡崎市内でも「お年寄りにやさしいまち」として注目を集めています。

＞＞河西さん
2014年にはなかみせ亭もリニューアルしてモーニングサービスを始めることができて、近所の高齢者の方も常連さんとして通ってくれるようになりました。この辺りは一人暮らしの方も多いから、お客さん同士や私たち（河西さん、柴田さん）とも顔なじみになって交流が生まれたことは本当によかったなと思っています。
夫が移動スーパーを始め、私もなかみせ亭に携わっていて、自分たちにとっても居場所ができたと感じています。柴田さんご夫妻はいまでは松應寺横丁のお父さんとお母さんのような存在ですね。人の縁がつながって、こうして10年やってくることができました。

＞＞柴田さん
長く専業主婦をしていて、まさか松應寺横丁でお店をやることになるとは思っていなかったけれど、自分自身の生きがいにもなりましたね。自分より年上の常連さんと仲良くなったりして、皆さんとお話するのが楽しみです。夫がじゅげむを運営しているので、夫婦ともに生き生きと過ごすことができています。

＞＞天野さん
愛知県から補助金をもらっていることもあってすぐにやめるわけにもいかないし、最初はどうしようかと思ったけれど（笑）。でも、続けてきたら10年はあっという間だったなという感じもします。課題が全てなくなったわけではないですが、これからも地域のみなさんと一緒に元気に長く続けていくことが目標ですね。

人との縁がきっかけで出会った
松應寺横丁に居場所ができました
河西公子さん
松本なかみせ亭 店主

住民・お店・お寺が互いを思いやり、
共存できる商店街にしていきたい
服部善樹さん
松應寺住職

不思議な街並みに惹かれて関わりだした
松應寺横丁にまちづくりの学びを還元したい
天野裕さん
岡崎まち育てセンター・りた事業企画マネージャー

お客さんとの交流は
自分にとっても楽しみで生きがいのひとつ
柴田智子さん
松本なかみせ亭 店主
柴田雅人さん
おしゃべりサロン・じゅげむ 管理・運営

松應寺

天文18（1549）年3月、家康公の父、岡崎城主松平広忠公は城中で家臣に刺殺され、亡骸は能見ヶ原の月光庵に埋葬された。同年11月、家康公は今川方の人質として熱田から駿府へおもむく途中、月光庵に参り、その墓上に小松を植え、松平一族の繁栄を祈願した。
永禄3（1560）年家康公は桶狭間の合戦後、岡崎城主となり、非業の死を遂げた父の菩提のため、月光庵の地に寺を建立。家康公は手植えの松が緑深く伸長したことと、人質の身であった自分が城主として再び三河の地に帰れたことを喜び、その寺を松應寺と名付けた。

発行／愛知県経済産業局中小企業部商業流通課
企画・編集・デザイン／株式会社ナゴノダナバンク
藤田まや、市原正人
安井加奈子、鈴木真理（テキスト編集）、安達麻未（MAP）
イラスト／ parayu
写真（メイン、コラージュ）／岩田直和
対談ライティング／伊藤友季子

2024 年 10 月発行

掲載情報は 2024 年 10 月時点のものです。